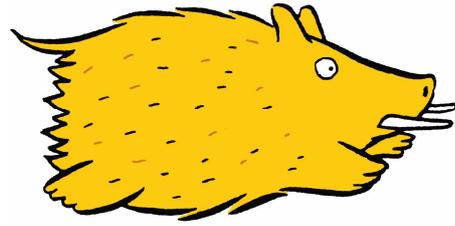
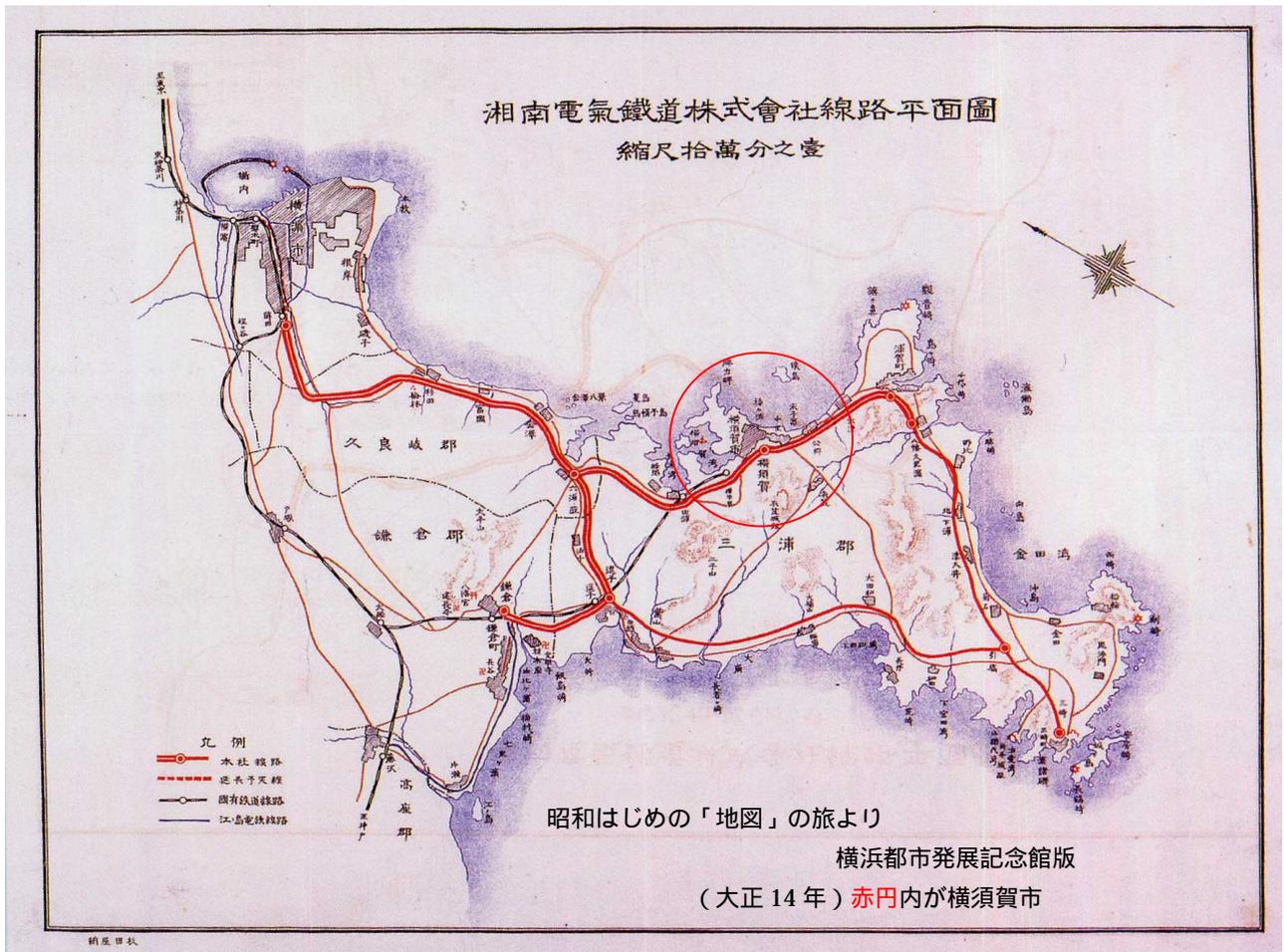


# ご近所トマソン隊かなあ



くじらぼ編

by うさお



上の地図は湘南電気鐵道の大正時代の三浦半島から鎌倉に掛けての沿線地図です。現在は京濱電気鐵道と合併し京浜急行になりました。今回はこの横須賀から三浦半島、千葉半島に掛けての帝都防衛ラインの一環でした第三海堡の遺構がテーマです。っ言ってもそれはほんの僅かで、後はノスタルジックな文献調査の記録だよ。

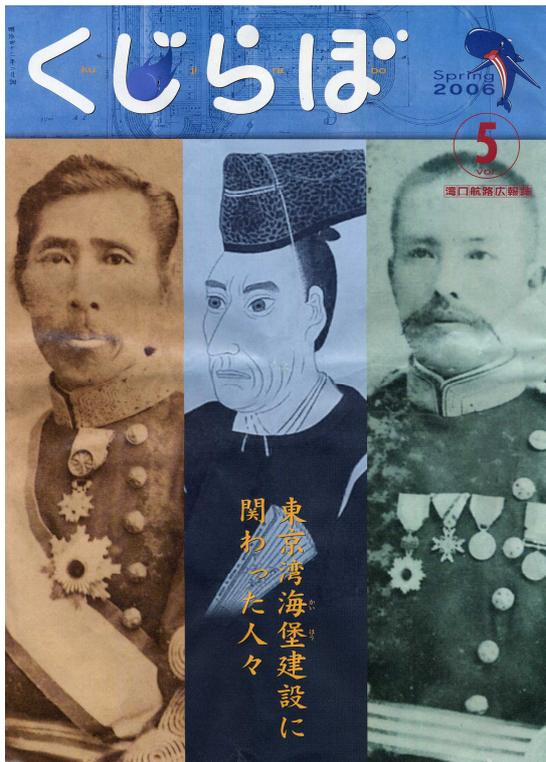
発端は何と言っても矢澤さんの「東海道」に起因します。「大垣から関が原まで東海道本線は二手に分かれていた。なんでも明治の頃この場所の坂を登るのに当時の機関車の力不足で上り坂は機関車を二両つないで登ったとか。登りきった後一両の機関車を元に戻すために別ルートが必要だったことの名残である。」

うさおは「鉄ちゃん」ではないので、これは自称「鉄ちゃん」のタツオトさんに任せちゃおうと思ったのですが、部下の「鉄ちゃん」に「こういう廃線の話、知ってる？」と聞いてみたら、

「うさおさん、なに言っちゃってます？廃線じゃありませんよ！廃駅です。廃駅！『新垂井駅』のことでしょう？」彼は歴史マニアでもあったので、この後、延々2時間と関が原と新垂井駅についての話を聞かされました。迷惑でしたよ、矢澤さん。でも、いつか取材に行きたい。

面白いことも判りました。新垂井駅というのは戦争中に生まれたものだそうで、当時の東海道本線は矢澤さんの記述の通り関が原で急勾配になるため、二連成の機関

車でないと迅速に重い軍用物資を運べませんでした。軍部の意向でこの区間を迂回する下り専用の別線を造ったということが本筋らしい。その下り線には新垂井駅が新たに造られました。



この駅も昭和61年には廃止されましたが、迂回線は現在でも使われています。「鉄ちゃん」達には大変有名などころで、関西の「鉄ちゃん」は一度はお参りしないといけないそうです。そうですって、タツオトさん！

戦時中は要塞司令部に物資を運んでいたと言うのだが、えっ要塞？名古屋にい…？

敦賀には要塞があったけど、名古屋にありましたか？乃木大将の旅順攻略の時にでも造られたか？または紀伊半島の何処かな？そういえば鈴鹿市北伊勢陸軍飛行場掩体は遺構として残っていますが…。

ということで、名古屋のことは由佳さんに調べてもらうとして、手近の横須賀軍港でも行って見ることにしました。

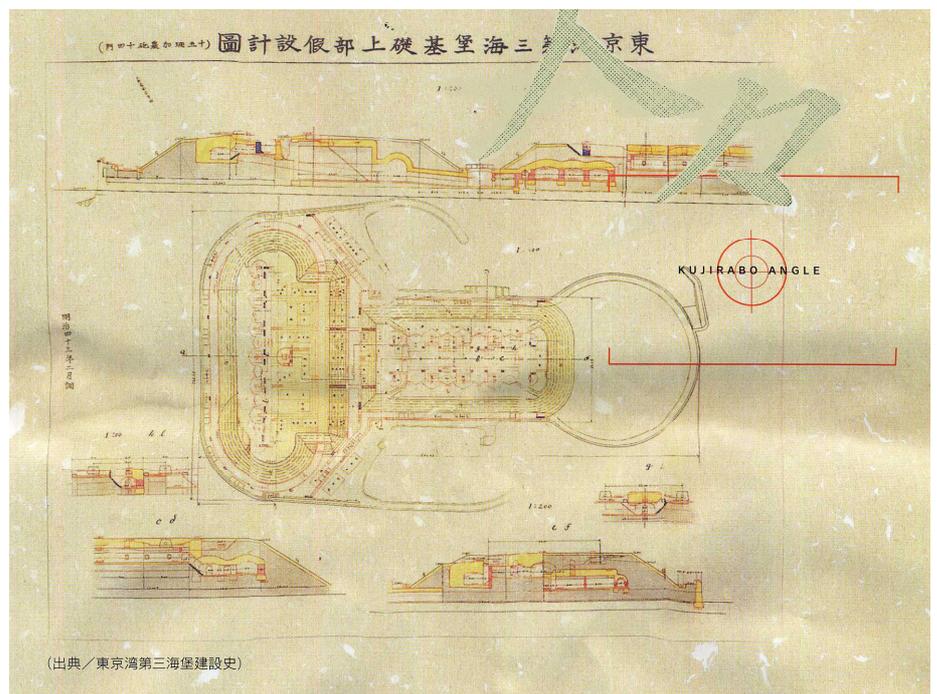
「くじらぼ」って広報誌を知っていますか？国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所が発刊しているものです。横浜市の図書館に行くと、これが只で置いて

あります。何か嬉しい。

東京湾上の海堡群は幕末から維新にかけて、江川太郎左衛門が観音崎から富津岬を結ぶ帝都防衛ラインを奏上したことに始まります。

この「くじらぼ」の表紙にあるように、山県有朋、黒田久孝、西田明則がその建設に貢献します。

右がその当時の建設設計図です。第三海堡は長年の風雨や波に浚われて崩壊し水中に没していきます。その海





中からの引き揚げ作業が開始され、いくつかが展示されているということでそれを見に行くことにしたのです。（くじらぼ5月号より）

見に行く場所は「うみかぜ公園」と「追浜展示施設」です。ついでに横須賀のヴェルニー公園も行って来ました。「うみかぜ公園」は目の前に猿島を擁する如何にも防衛に適した処、「追浜展示施設」は実は殺風景な海からの引き上げ物の仮置き場でした。

「うみかぜ公園」に到着。夏の暑い最中なのに家族連れやら、釣り人やらで結構賑わっていました。中にはコンロを持ち込んで焼き肉をしていたカップルも。彼女のほうは少し恥ずかしそうでした。ライ隊員が鼻をヒクヒクさせて近寄っていったからね。

そこは猿島がほんの指呼の間にある処で、この日、猿島で行われていた何かのイベントすら窺うことが出来ました。人の群れと幟が立ち、Caccoが渡って見ようかって言っていました。（あっ、望遠レンズで見てたんですけどねっ）うさおはそんなに暇じゃないんだけどな。

猿島も島内には色々な軍事施設が残っており、煉瓦トンネルも縦横に掘られています。

（「トマソン隊 No.3 隧道編」にCaccoとグリコ隊員の探訪記があります。ご参照ください。）

その猿島越しに見えるのが、第三海堡、第二海保、第一海保です。いやあ、まさに帝都防衛ラインだなあ。実感、実感。

その一番近い海堡が第三海堡ですので、一旦追浜の仮置き場に置かれた後、修復されてこの公園に飾られたのでしょう。

ベトン（Beton：独逸語でコンクリートのこと）と言うのに相応しい、年季の入った地下の兵舎でした。こんな閉鎖空間は戦争でなかったら、閉所恐怖症ではないのでうさおは大好きです。

この兵舎の詳細については、次頁のこの遺構の説明図をご覧ください。この当時の構造物が鉄筋コンクリートであったかは分かりませんが、あの当時を考えると重力式の無筋コンクリートであったことが容易に推測できます。ですから海か



うみかぜ公園



猿島



第三海堡遺構

ら引き揚げる時に、破壊を生じさせないように引き揚げるか、頭を絞ったに違いありません。幾つかの引き揚げ用の鋼棒を通す穴が、この遺構に穿たれていました。そうでもしないと引き揚げの際の海水の浮力が無くなった時点でばらばらになったでしょう。



第三海堡



第一、第二海堡

上の写真が今回の第三海堡です。前頁の地図の「うみかぜ公園」から見ると第三が右手に、第一と第二が重なって一つの島に見えます。

引き揚げられた遺構は煉瓦造りの入口の壁も綺麗に残っていました。

村風子的なうさおと、いぬいぬしているライ隊員です。下の写真はこの兵舎の裏を通っている地下連絡通路です。



THE THIRD SEA FORT IN TOKYO BAY

東京湾第三海堡撤去構造物  
おたへいしよ  
**大型兵舎 I-700**

構造物の詳細については、  
東京湾口航路事務所(046-828-8366)まで

大型兵舎 I-700

構造物の位置

構造物の諸元

施工年代	1911(明治44年)~1921(大正10)年頃
撤去日	2004年1月15日
外形寸法	L×B×H=12.0×19.5×5.0m
重量	1,205t

大型兵舎の構造

地上へ通じる連絡通路  
兵舎  
レンガ(イギリス積)  
小窓  
排水板  
排水管

第三海堡尾部中央の生活用水(防火用水)等のろ過施設を兼ねた大型兵舎(守備兵隊が生活(退避)するための建物)で、頭部側には千葉県側から横須賀市側へ抜ける連絡通路(横断トンネル)がありました。兵舎兵舎の天井は半円形のアーチ状で、入口壁面にはイギリス積のレンガが積まれていました。また、連絡通路部分は中央水平部分の地下に空間があり、砂が充填してありました。

レンガの積み方

レンガの主な積み方には、a) フランス積とb) イギリス積の2種類があり、前者は各層に長手と小口とが交互に現れる積み方で、後者は長手の層と小口の層が交互に現れる積み方です。一般的にフランス積は外観が美しく、イギリス積は堅固な積み方であるとされています。第三海堡のレンガ構造物はイギリス積で積まれています。

撤去工事の方法は？ 2004年1月15日撤去

本構造物は、総重量が1200トンを超える超大型の兵舎でしたが、コンクリートの健全度も高いことから分割せず一体で引きあげられました。コンクリートの打継ぎ面から剥離・解体しないよう、側面部と底面部に吊り金具を配置し、3000t吊り繰の大型起重機を用いて撤去・陸揚げを行い、展示物として公開しています。

国土交通省 関東地方整備局 東京湾口航路事務所



これで全体の1/20位ですので、海上基地はものすごく広がったことが分かります。何も無い海上に人工島を作り建造され



たことを考えると吃驚しますね。

遺構はまだまだサルベージされていますので、「追浜展示施設」にも行って見ました。最初は何処だか判りませんでしたでしたが、東亜建設工業の看板の出ている現場がありましたので、覗いてみるとそこが引き揚げ仮置き場でした。

この日は現場の門扉（「東京湾口航路事務所」の看板も掛かっていました）は閉じられたままでしたが、Cacco は関係の無い隣の工場にずかずか入り込んで写真を撮ってきました。しかし、大急ぎで帰ってくると「早く車を出して…どうもあの守衛さんが不審者と思ってこっちに来るから…」

おお、すげえ、すっかり廃墟マニア振りを発揮しているぞ。

でも、ここからではネット越しなのであまり良く対象物が見えません。そこでこの入り江が見えそうな出島に行ってみました。こっちのほうが良く見えるね。

先ほどの処と同じアーチ状な屋根を持つ構築物が見えます。

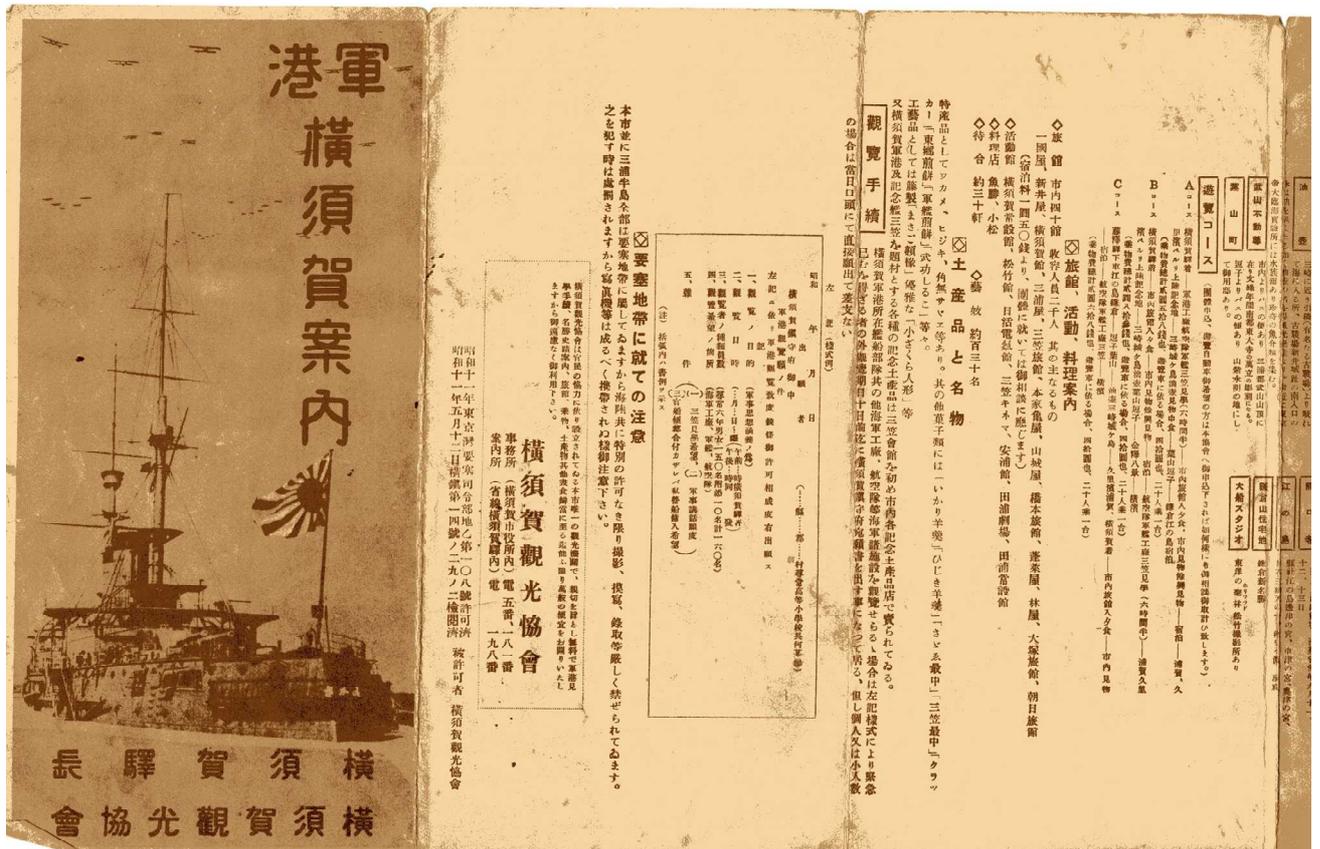
それとボイラーでしょうか、鉄製の煙突らしきものも見えます。

手前に見える大きな壁のようなものは、先ほどの場所の入口で見たものです。なんだかタイタニック号のサルベージを遠くから見ているようで、早く一般公開してほしいなあ。

この帝都防衛ラインは、日本を欧米から守るために考えたのだろうが、これを造ったのは誰だろうと考えてしまう。幕末から明治にかけてのこの当時に、これだけの建造技術を持っていたのは日本に来ていた、英国が仏蘭西の工兵隊であろうよね。でも、それだと矛盾があるよね。

自分達の工兵技術を駆使して造った要塞で、自国の艦隊から防衛するのだからね。それとももう既にその技術を習得した日本人技術者がいたのだろうか？

確かに琵琶湖子疎水を造った田辺朔郎のような土木の天才も生まれて来てはいましたけれど…。



現在の横須賀ベース



自衛艦か米国海軍かは判らない

軍港横須賀。今も昔も艦隊の街です。うさおの母が若かりし頃、父と旅行にでも行ったのでしょうか。「横須賀の観光案内」を持っていました。これが結構面白い。

「観覧手續」横須賀軍港所在艦船部隊其他海軍工廠、航空隊等海軍諸施設を観覧せらるゝ場合は左記様式により緊急已むを得ざる者の外観覧期日十日前迄に横須賀鎮守府宛願書を出す事になって居る。但し個人又は少人数の場合は當日口頭にて直接願出で差支ない。

「要塞地帯に就ての注意」本市並びに三浦半島全部は要塞地帯に属してゐますから海陸共に特別の許可なき限り撮影、模寫、録取等厳しく禁じられてゐます。之を犯す時は處罰されますから寫眞機等は成るべく携帯されぬ様御注意下さい。

昭和11年のパンフレットです、すごく軍事色が色濃いなあ。この年、



前方に洋風あずま屋 ヴェルニー公園内



海軍の碑



軍艦山城之碑



正岡子規の碑

二・二六事件が勃発、陸軍皇道派将校が約1400名の兵を率いて首相・陸相官邸、内大臣私邸、警視庁、朝日新聞などを襲撃しました。東京全市に戒厳令が布かれ、斎藤実内大臣、高橋是清蔵相らが殺害されました。パンフレットにある土産物なども「東郷煎餅」、「軍艦煎餅」、「武功しるこ」などなど、感心しちゃうなあ。

この入り江を挟んで対岸がヴェルニー公園、今立っているところですね。ここは以前は諏訪公園と呼ばれていました。

明治維新前の1865年に、フランス海軍の技術者、フランソワ・レオンス・ヴェルニー（1837年～1908年）は、幕府から横須賀製鉄所（造船と船の修理をする施設）の建設と運営の要請を受け、来日しました。日本は開国直後で、海軍・海運の整備が急がれていた時期です。ヴェルニーは、製鉄所のほかに観音埼灯台や走水水道などの建設を手掛けました。まさに横須賀は、日本の産業近代化の発信地となったのです。

この功績をたたえ、旧横須賀製鉄所（現在は米海軍横須賀基地内）を望むJR横須賀駅から京急汐入駅にかけての海辺に、ヴェルニーの生まれ故郷フランスの庭園様式を取り入れた「ヴェルニー公園」が誕生しました。

園内には、四季を通して楽しめるバラの花壇や噴水、洋風あずまや、さくらの広場などを配置。海に沿ったボードウォーク（木道）では、心地よい潮風に吹かれて散策ができます。公園の中心の開明広場には、ヴェルニーと並んで幕府勘定奉行・小栗上野介忠順の胸像があります。近代日本の礎を築いた二人の姿は、今も日本の発展を願い、横須賀の海を見つめています。（横須賀市経済部観光課）

園内には幾つかの碑群があります。「海軍の碑」、「軍艦山城之碑」、「軍艦沖島の碑」、「国威顕彰」、「軍艦長門碑」、「正岡子規の句碑」、「開港碑」、「小栗上野介の碑」、「ヴェルニーの碑」、「記念石」（これは小栗上野介が斬首



衛兵詰所



ヴェルニー像



小栗上野介像



仏蘭西風噴水

された河原の石だって、意味わかんね～！)などが展示されています。

ここは別にヴェルニーの私邸があったと言う場所ではなかった様で、本当に只公園だったようです。この碑群以外にも「開明広場」には逸見波止場衛門衛兵詰所がありました。



にわか雨にも負けず取材する Cacco

フランソワ・レオン・ヴェルニー (1837 ~ 1908)  
フランス人の造船技師で、海軍増強をめざした徳川幕府の要請により横須賀製鉄所 (造船所) 建設の責任者として 1865 年来日した。明治維新後も引き続きその建設と運営の任にあたり、観音崎灯台や走水の水道の建設、レンガの製造のほか、製鉄所内に技術学校を設けて日本人技術者の養成に努めるなど、造船以外の分野でも広く活躍し 1876 年帰国した。

小栗上野介忠順 (1827 ~ 1868)

日本初の遣米使節をつとめ、外国奉行や勘定奉行など徳川幕府末期の要職を歴任し、フランスの支援のもと横須賀製鉄所 (造船所) 建設を推進した。軍政の改革、フランス語学校の設立など日本の近代化に大きく貢献したが、大政奉還後に徹底抗戦を主張したため役職を解かれ、領地の上野国権田村 (群馬県倉淵村) で官軍により斬首された。

(上記いづれも碑文より)

フランス風の噴水とボードウォークと呼ばれる板敷きの遊歩道が大変綺麗な処ですが、この公園の対岸は米軍のベース (横須賀製鉄所跡地) があり、いやでも戦争の爪あとを思い出させます。(いや、うさおは戦争は知りませんでした。潜水艦を可愛い薩摩芋みたいだ



と想像くらいですから。)このボードウォークを歩きながら、汐入のビル群を眺めて軍港横須賀の新旧の対比をひしひしと感じたうさおとライ隊員でした。

(この辺りにご興味の方は冒頭の湘南電気鐵道のマップを参照されて散策されると良いと思います。おいおい、今のじゃないから行けないジャン。)

今回は突然の雨とヴェルニー記念館が閉館だったこともあり、記念館の写真を撮ってきませんでしたので、石渡カメラ店のものを使わせていただきました。URL を載せておきます。

<http://www.hat.hi-ho.ne.jp/syasinn/index.html>

また以下に、「軍港横須賀案内」のパンフレットの全文を掲げておきます。

次回は戦前の電気の取り扱い注意でもやろうかな。

